

福岡県米麦大豆生育情報

平成31年3月20日
福岡県農林業総合試験場

麦の生育概況と対策

1. 本年の気象 [太宰府アメダス]

	2月27日～3月19日 (21日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	9.5	14.4	5.2	96	122
前年差(比)	-1.1	-2.3	+0.1	82%	77%
平年差(比)	+1.2	+1.4	+1.4	98%	147%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 麦の生育 [小麦:11月20日播種、大麦:11月26日播種]

2月27日～3月19日の平均気温は平年より1.2℃高く、日照時間は平年並で、降水量は平年より47%多かった。

3月19日現在の生育は、草丈は平年に比べて大麦で69～91%、小麦で38～65%高かった。莖数は大麦では筑後分場の「はるしづく」で6%少なく、農産部の「ほうしゅん」で18%多く、小麦では平年並～29%多かった。主稈葉数は大麦で1.2葉、小麦で0.4～1.4葉多く、生育は極めて早い。今後の気温が平年並で経過した場合、出穂期は大麦で11～12日、小麦で9～11日早いと予想される。

3. 今後の対策

(1) 排水対策

降水量が多く、ほ場の湿潤状態が続いているため、今後も排水対策が極めて重要である。排水溝の溝さらえ、排水口の整備を行い、速やかな地表水の排水を図る。

(2) 赤かび病防除

麦類の収量、品質に対する赤かび病の影響は大きく、防除は必須作業である。小麦と裸麦は開花期(出穂後7～10日)、二条大麦は蒴殻が押し出されてくる穂揃期後10日頃(出穂後12～14日)に必ず防除を行う。赤かび病に弱い品種(ラー麦 [ちくしW2号]、ミナミノカオリ、はるか二条、イチバンボン)や、降雨や曇天が続く多発生が予想される場合には、7～10日後にもう一度防除を行う。防除薬剤は「普通作病虫害・雑草防除の手引き」を参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(3) 穂揃期追肥

子実のタンパク質含有率を向上させるため、ラー麦とミナミノカオリは穂揃期追肥として10a当たり窒素量5kgを、穂揃期～穂揃期後7日に必ず施用する。尿素の葉面散布を行う場合には、10a当たり窒素量2.5kgを開花期と開花期後7日頃に2回施用する。

チクゴイズミ等の日本めん用品種についても、毎年、タンパク質含有率が低い地域や葉色低下が著しい場合には、穂揃期追肥として10a当たり窒素量2kg程度を施用する。

4. 農林業総合試験場における調査成績

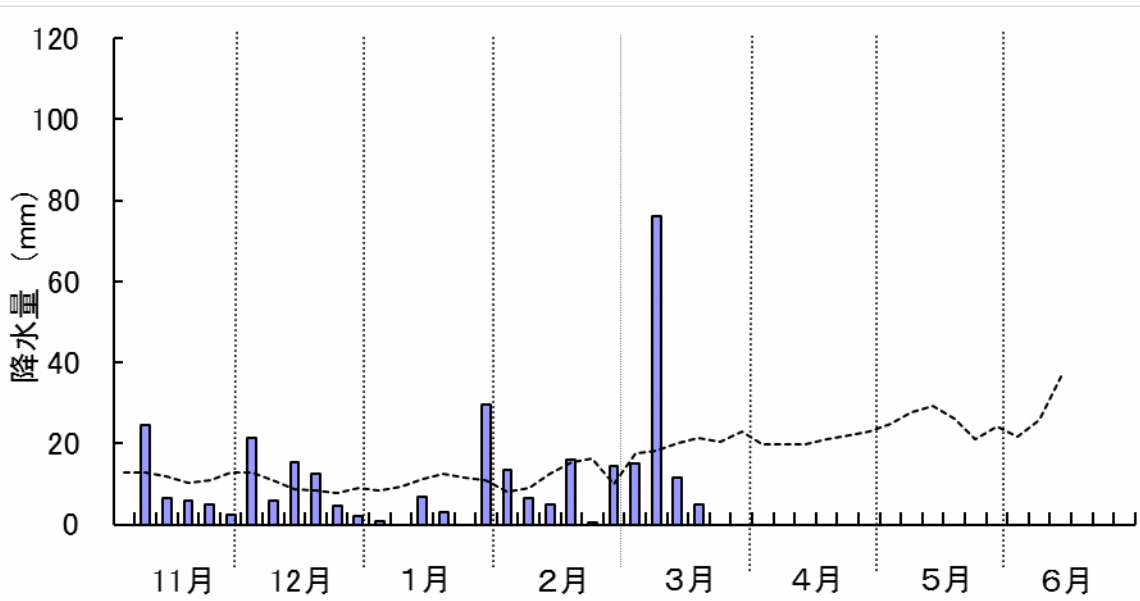
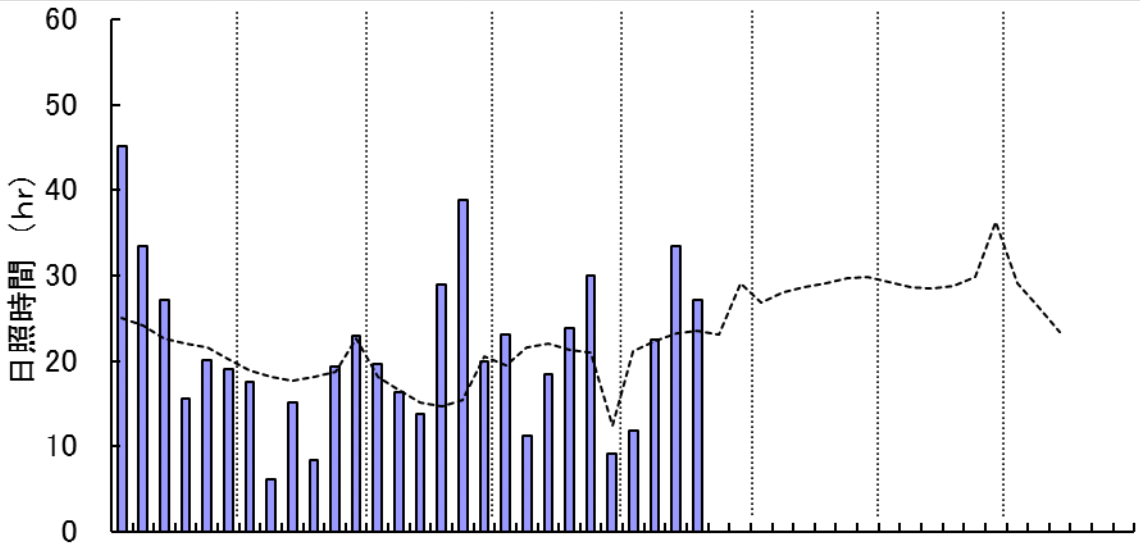
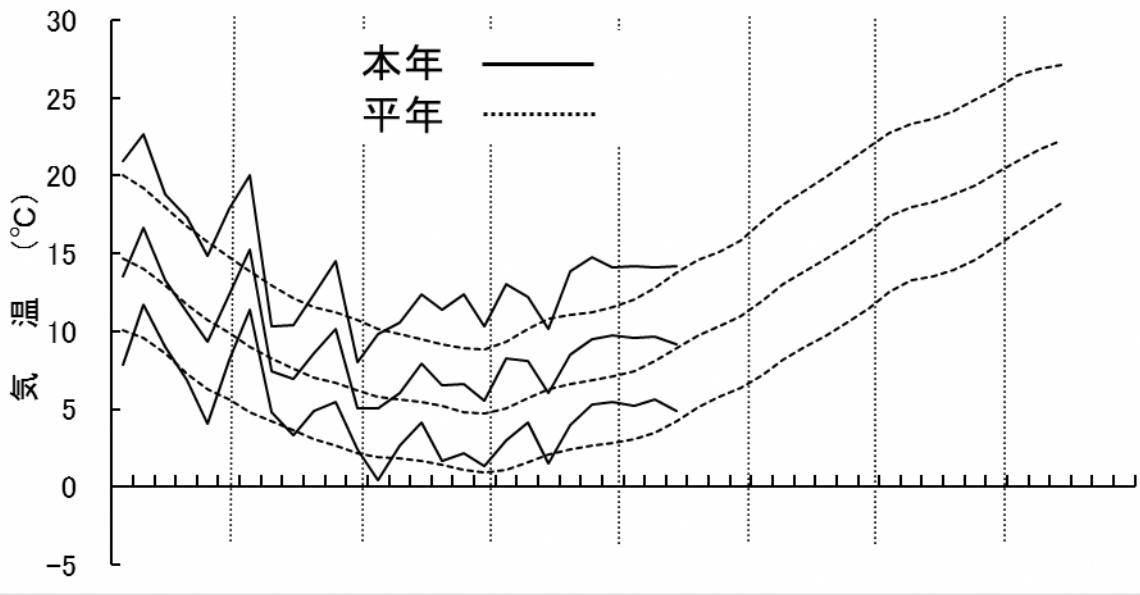
調査場所	播種期 月.日	品種名	年次	2月27日			3月19日			茎立期 月.半旬	予想 出穂期 月/日
				草丈	茎数	葉数	草丈	茎数	葉数		
				cm	本/m ²	L	cm	本/m ²	L		
農産部	11.20	チゴ ^ゴ イ ^イ ミ	本年	45.7	1,021	7.3	74.5	889	8.5	2.3	3/30
			前年比(差)	267	156	+1.9	170	124	+1.3	(3.1)	-13
			平年比(差)	187	140	+0.6	159	129	+0.4	—	-10
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	50.0	764	7.4	78.3	707	8.7	2.3	3/29
			前年比(差)	292	121	+1.9	173	108	+1.1	(3.1)	-13
			前9年比(差)	199	115	+0.7	165	112	+0.6	—	-10
11.26	ほうしゅん	本年	37.0	1,314	8.0	67.1	1,206	10.0	2.4	3/28	
		前年比(差)	289	108	+2.2	190	89	+1.8	(3.1)	-13	
		平年比(差)	202	119	+1.2	191	118	+1.2	—	-12	
筑後分場	11.20	シカ ^カ 和 ^和 ギ ^ギ	本年	38.0	918	7.8	67.5	845	10.0	2.4	3/29
			前年比(差)	227	110	+1.6	162	93	+1.7	(3.2)	-10
			平年比(差)	145	111	+0.7	138	110	+1.4	—	-9
	11.20	ラー麦 (ちくしW2号)	本年	50.3	712	7.5	77.8	677	8.9	2.3	3/26
			前年比(差)	273	85	+1.7	161	84	+1.1	(3.1)	-12
			前9年比(差)	180	96	+0.6	150	98	+0.5	—	-11
11.26	はるしずく	本年	39.0	1,349	8.4	74.4	1,034	10.5	2.3	3/24	
		前年比(差)	232	163	+2.1	197	104	+1.9	(3.2)	-12	
		平年比(差)	170	110	+1.3	169	94	+1.2	—	-11	

注1) 平年値はH20～29年播の平均値。

2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

3) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および茎数は前年比および平年比、出穂期および葉数は前年差および平年差を示す。

4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の予測値。過去の播種期および出芽期～出穂期の積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。



冬作期間の気象 (太宰府アメダス:平成30年11月~平成31年6月)